

三菱電機グループの経営戦略

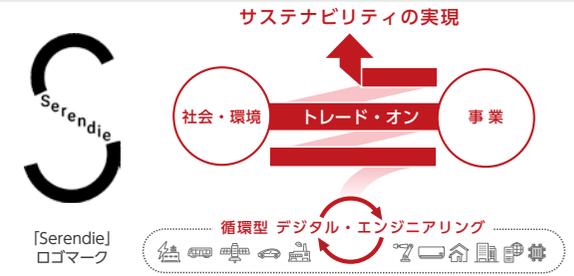
「循環型 デジタル・エンジニアリング企業」への変革を目指し、デジタルと重点成長事業を中心に成長を加速



常務執行役
CSO(経営企画、関係会社、
3つの改革推進担当)、
CDO(DX担当、
ビジネスイノベーション本部長)
武田 聡

三菱電機グループは、社会・環境への貢献と事業成長を両立する「トレード・オン」の活動を通じたサステナビリティの実現を目指し、「循環型 デジタル・エンジニアリング企業」をありたい姿として位置づけています。

環境変化が激しく、将来の予測が困難な中ではありますが、中長期的な視点をもってSerendieによるデジタル分野の強化と事業ポートフォリオ戦略を推進し、三菱電機グループの企業価値最大化とありたい姿の実現に向け、一層邁進していきます。



2025年度財務目標

FAシステム事業や空調・家電事業における足元の事業環境の悪化を受け、営業利益率、ROE、キャッシュ・ジェネレーションの財務目標を2024年5月に見直しました。

2025年度財務目標の達成と、その後の営業利益率10%及びROE10%の早期達成に向け、事業ポートフォリオ戦略を軸に事業の成長と収益性や資産効率の向上を図っています。

	2023年度 ＜実績＞	2025年度 ＜目標＞	
		— 見直し前 —	— 見直し後 —
売上高	5.3 兆円	5.0 兆円+	5.0 兆円+
営業利益率	6.2%	10.0%	8.0%+
ROE	8.2%	10.0%	9.0%
キャッシュ・ジェネレーション*1	1.8 兆円/3年*2	3.4 兆円/5年*3	3.3 兆円/5年

*1 営業CFに研究開発費加算等の調整後

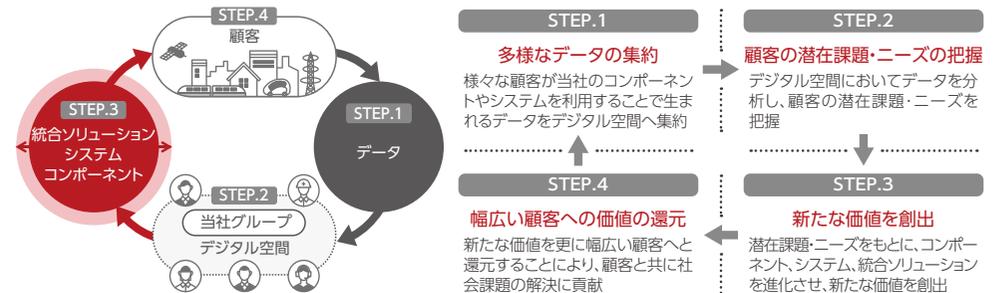
*2 2021年度から2023年度の累計額

*3 2021年度から2025年度の累計額

循環型 デジタル・エンジニアリング

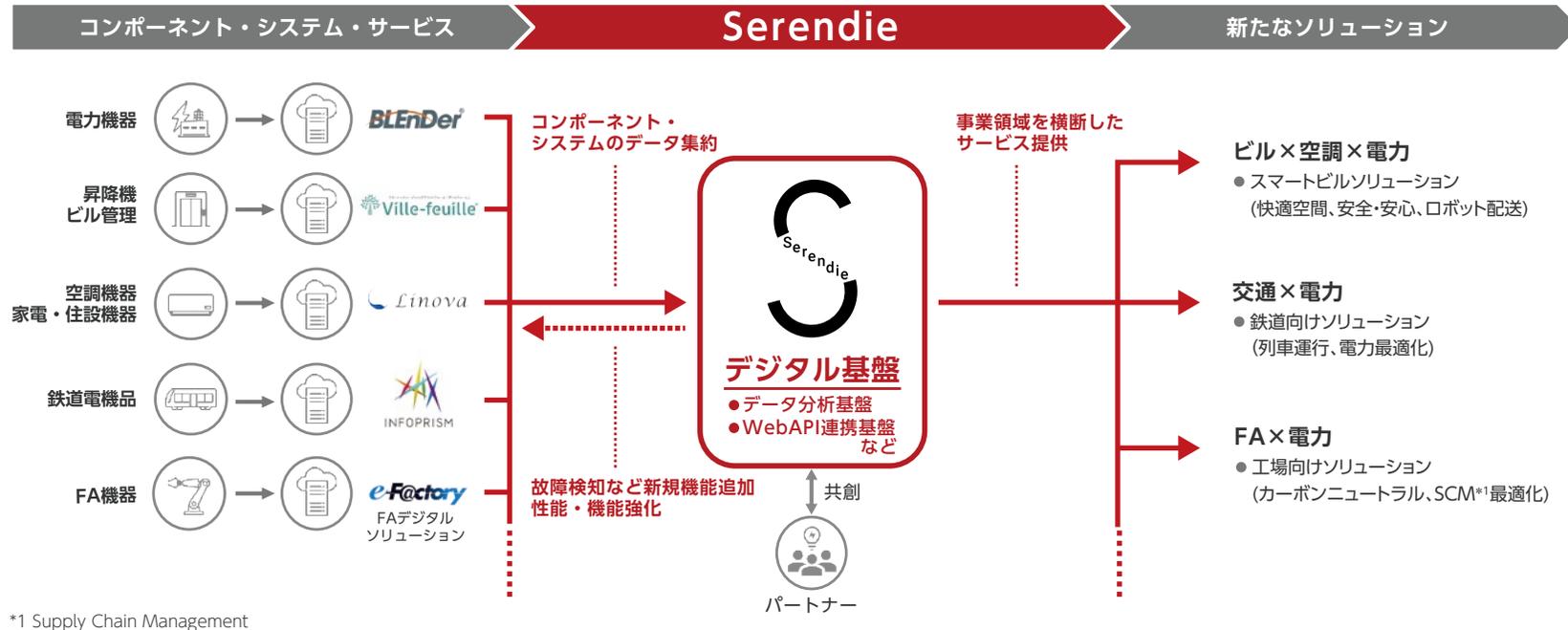
三菱電機グループは、お客様から得られたデータをデジタル空間に集約・分析するとともに、グループ内が強くつながり、知恵を出し合うことで新たな価値を生み出し、社会課題の解決に貢献する「循環型 デジタル・エンジニアリング企業」への変革を進めています。

この「循環型 デジタル・エンジニアリング」の実現に向け、人財や技術基盤をはじめとした、デジタル領域のアセット強化に取り組んでいます。



デジタル基盤「Serendie(セレンディ)」と Serendie 関連事業

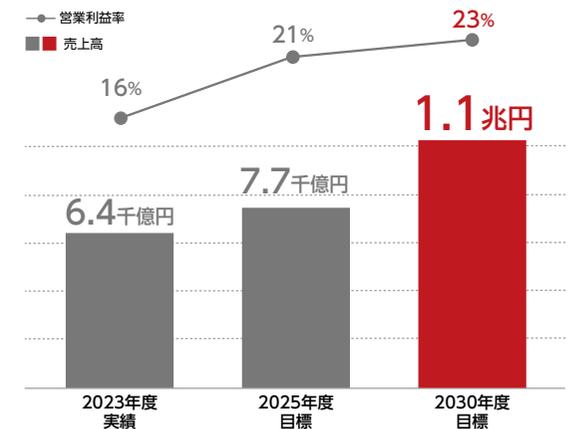
循環型 デジタル・エンジニアリングを実現するため、新たなデジタル基盤「Serendie」を構築しました。デジタル基盤「Serendie」では、データ分析基盤やWebAPI連携基盤を中心に、多様な人材がデータを活用し新たな価値を生み出すために必要な要素が体系化されています。これまで、三菱電機グループでは、コンポーネントやシステムからのデータ収集を、事業領域毎に個別に実施していました。「Serendie」を活用することで、これらのデータの集約と分析が可能となります。そうした分析結果から生まれるアイデアをもとに、事業領域を横断した新たなソリューションの提供や、コンポーネントの進化に取り組んでいきます。



また、データを活用したソリューションやデータを収集するコンポーネントに関わる事業を「Serendie関連事業」と位置付けました。Serendie関連事業の2023年度の実績は売上高6,400億円、営業利益率16%でした。今後、「Serendie」を成長ドライバーとして、ソリューションの拡大、コンポーネントの更なる強化を図り、2030年度には売上高1.1兆円、営業利益率23%を目指します。

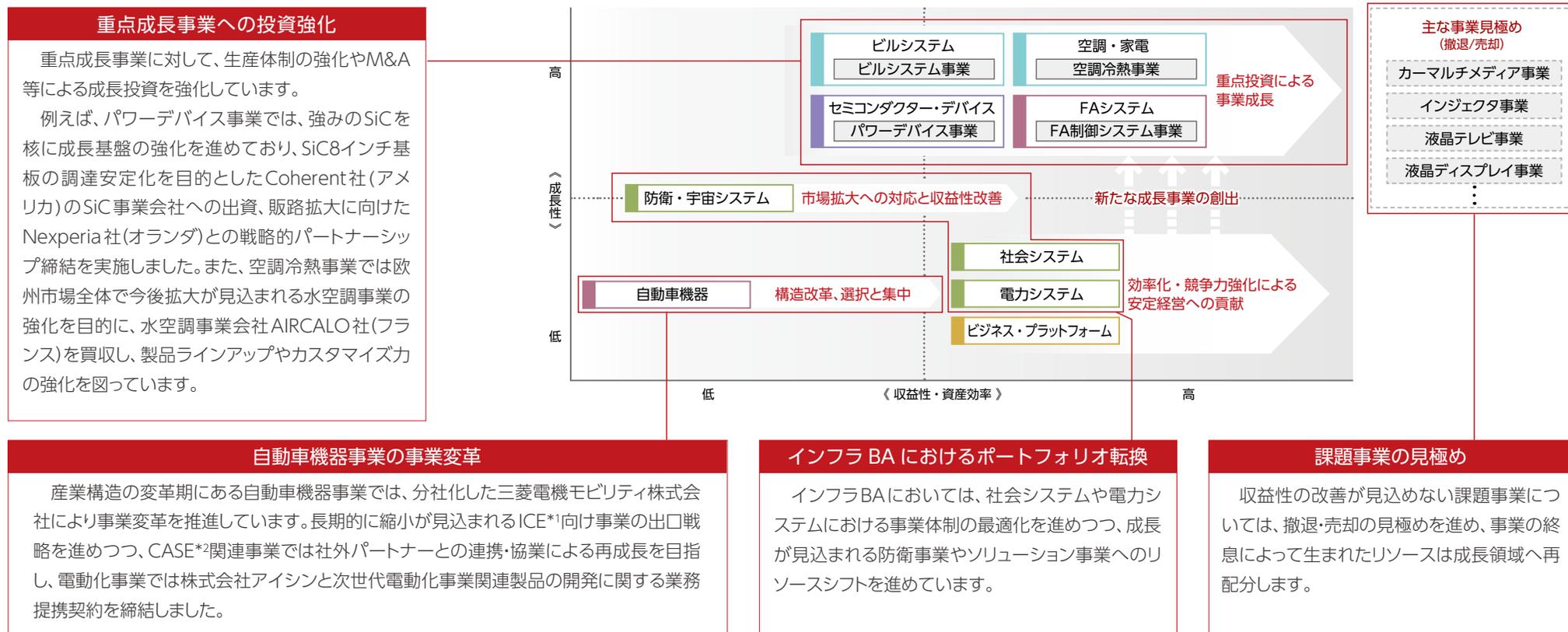
Serendie関連事業の目標達成に向けた課題の一つが、DX人材の確保です。今後、三菱電機グループ内のIT技術者のリスクリングや採用・M&Aなどによる人材獲得に取り組み、2030年度までにDX人材を2023年度比約3倍の20,000名に拡大させる計画です。

DX戦略



事業ポートフォリオ戦略

ROICを重視した経営を推進し、重点成長事業への投資を最優先に、成長性と収益性・資産効率の観点から各サブセグメントの方向性を明確にし、事業ポートフォリオの見直しを進めています。



*1 Internal Combustion Engine(内燃機関)

*2 Connected(コネクティッド)、Autonomous/Automated(自動化)、Shared(シェアリング)、Electric(電動化)

*3 2024年10月1日に三菱電機ロジスティクスの一部株式をセイノーHDに譲渡し、社名を変更

グループ運営体制の最適化

最適なグループ運営体制の構築に向けては、従来から再編や機能の整理を進めてきましたが、関係会社について機能強化と運営のスリム化の両面で、より抜本的な対策を進めます。例えば、物流機能の強化に向けて、三菱電機ロジスティクス株式会社は、セイノーホールディングス株式会社(以下、セイノーHD)の下でMDロジ株式会社として今後の事業を展開します*3。セイノーHDのアセットを活用することで、三菱電機グループとしては、より安定的な供給網を確立し、お客様により良い製品・サービスを提供することが可能となります。